

平成 23 年度（第 55 回）
岩手県教育研究発表会資料

家庭／技術・家庭

中学校技術・家庭科家庭分野における 実践的・体験的な学習活動に関する研究

－住生活の内容における題材開発と指導資料の作成を通して－

《研究協力員》

花巻市立矢沢中学校 教諭 田 口 真 弓

平成 24 年 2 月 14 日
岩手県立総合教育センター
科学産業教育担当
川 地 里 美

目 次

I	研究の目的	1
II	研究の内容と方法	1
1	内容と方法	1
2	調査と授業実践の対象	1
III	研究結果の分析と考察	1
1	中学校技術・家庭科家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する基本構想	2
(1)	家庭分野住生活における内容の改訂	2
(2)	家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する基本的な考え方	2
(3)	家庭分野住生活における指導の実態	3
2	実践的・体験的な学習活動を中心とした題材開発と指導資料	4
(1)	題材開発の視点	4
(2)	指導資料	5
3	開発した題材を活用した授業実践の分析と考察	6
(1)	授業実践の概要	6
(2)	実践結果の分析と考察	7
IV	研究のまとめと今後の課題	8
1	研究のまとめ	8
2	今後の課題	8

<おわりに>

【引用文献】

【参考文献】

I 研究の目的

平成20年3月告示の中学校学習指導要領家庭分野住生活の内容では、家族が住まう空間としての住居の機能を理解し、安全で快適な室内環境の整え方を知り、よりよい住まい方を工夫する能力の育成が求められている。

しかし、「特定の課題に関する調査」（国立教育政策研究所，平成20年度）によると、安全に住まう工夫について考える学習が好きと肯定的に回答した生徒は50%と、他の内容より一段と低い傾向にある。さらに、安全に関する意識はあまり高くはなく、新鮮な空気を流れやすくする窓の位置を考えたり、家庭内事故の要因を具体的に考えたりすることに課題が見られた。これは、住生活の指導において容易に取り入れられる実践的・体験的な学習活動や実生活とかかわりのある題材例が少ないことで、指導に不安を抱えている教師が少なくないことが要因として考えられる。

そこで、家庭分野の住生活の内容について、日常生活を想定した場面設定や簡易実験などの実践的・体験的な学習活動を盛り込んだ題材開発や指導資料を作成し、実践的・体験的な学習活動を支援する必要がある。

本研究は、住生活の内容における題材開発と指導資料の作成を通して、技術・家庭科家庭分野における実践的・体験的な学習活動の充実に役立てようとするものである。

II 研究の内容と方法

1 内容と方法

- (1) 中学校技術家庭科家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する基本構想の立案（文献法，調査法）
- (2) 実践的・体験的な学習活動を中心とした題材と指導資料の作成（教材開発法，文献法）
- (3) 開発した題材を活用した授業実践と実践結果の分析と考察（授業実践，調査法）
- (4) 中学校技術家庭科家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する研究のまとめ

2 調査と授業実践の対象

- (1) 調査の対象
中学校家庭科教員9校9名（花巻市教育研究所中学校家庭部会4名，和賀地区教育研究会技術・家庭科部会家庭班5名）
- (2) 授業実践の対象
花巻市立矢沢中学校（研究協力員所属校）

III 研究結果の分析と考察

「特定の課題に関する調査」（国立教育政策研究所，平成20年）の結果に基づき、技術・家庭科家庭分野（以後，家庭分野という）の住生活の内容における実践的・体験的な学習活動を指導する上での課題を探った。その結果，住生活の学習指導を充実させるための実践的・体験的な学習活動に必要な教具の現有数などが少ないこと，教師や生徒が入手容易な教材・教具を用いた題材開発が求められていることがわかった。

そこで，本研究では，新学習指導要領の改訂のねらい，家庭科教育などの文献や先行研究から実践的・体験的な学習活動のとらえを明らかにし，住生活の内容における題材の開発から指導資料の作成を行い，それらの課題を解決する一例を示す。研究の基本構想，題材開発と指導資料作成の視点と構成，開発した題材を活用した授業実践の概要と分析・考察の結果から，その成果と課題を述べる。

1 中学校技術・家庭科家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する基本構想

家庭分野における実践的・体験的な学習活動の基本構想について、「内容の改訂」、「基本的な考え方」、「指導の実態」、「実践的・体験的な学習活動を中心とした題材開発と指導資料」から述べる。家庭分野住生活における実践的・体験的な学習活動を充実させるため、日常生活を想定した場面設定や簡易実験などを盛り込んだ題材を開発し、それらの活用方法を具体的に示す指導資料を作成した。

(1) 家庭分野住生活における内容の改訂

今回の改訂は小学校の内容との体系化を図り、指導事項は【表1】のように整理された。C「衣生活・住生活と自立」については、人間を取り巻く身近な環境の視点から衣生活と住生活に関する領域を1つの内容として設定された。

家庭分野では、これまで被服製作実習を

伴う「簡単な衣服の製作」が選択であったが、今回の改訂では「布を用いた物の製作、生活を豊かにする工夫」が新設され、すべての生徒に履修させることになった。布を用いた簡単な衣服や小物を製作することを通して、衣生活や住生活を豊かにするための工夫ができることをねらっている。住生活の内容では、【表2】に示すように、小・中の系統性や連続性がより重視された内容となっている。これまで小学校で課題選択であった「暑さ・寒さ、通気・換気及び採光」は、いずれもすべての児童に学習させることになった。整理整頓と清掃の内容は小学校のみに整理された。これらの学習内容を踏まえ、中学校では安全に重点を置いた室内環境の整え方について取り扱うこととしている。

また、学習した知識と技術などを活用し、これからの生活を展望する能力と実践的

な態度をはぐくむことの必要性から、内容A～C中【表1】に、「生活の課題と実践」に関する指導事項を設定し、生徒の興味・関心に応じて、1又は2事項を選択して履修させることになった。

(2) 家庭分野における実践的・体験的な学習活動に関する基本的な考え方

家庭分野の学習指導では、体験から、知識と技術などを獲得し、基本的な概念などの理解を深め、実際に活用する能力と態度を育成するために、実践的・体験的な学習活動が重視されている。題材構成に当たっては、改訂の基本方針や具体的な指導事項を十分踏まえ、指導のねらいに即した実践的・体験的な学習活動を設定することが重要である。中間(2004)は、実践的・体験的な学習活動について「実践と体験は明確に分けることはできないが、実践的(practical)に学ぶということは、生活に関係のある実践問題を通して学ぶことであり、自分で実際に行動することを通して学ぶことである。体験的(experiential)に学ぶということは、自分自身で経験することであり、実践そのものではないが、関心を高めるきっかけとなり実践の前提となると考えられる。」と述べている。そして、望月(2008)は、総合的な能力を育成する家庭科

【表1】小・中の内容の体系化

小学校	A「家庭生活と家族」 B「日常の食事と調理」 C「快適な衣生活と住まい」 D「身近な消費生活と環境」
中学校 技術・家庭科 家庭分野	A「家族・家庭と子どもの成長」 B「食生活と自立」 C「衣生活・住生活と自立」 D「身近な消費生活と環境」

【表2】小・中の系統性や連続性を重視した住生活の内容

小学校	・整理整頓と清掃 ・室内環境の整え方 (住んでいる地域の暑さ・寒さ、通気・換気及び採光)
中学校	・住居の基本的な機能 ・安全な住まい方の工夫 (防災、幼児・高齢者の家庭内事故) ・室内環境の整え方 (化学物質、一酸化炭素、カビ、ダニなどによる室内空気の汚染や騒音が及ぼす健康への影響)

の目的を達成するための総合的な学習方法として「実習」「実験」「見学」「調査」「体験」などの実践的・体験的な学習活動を駆使して指導を進めることの重要性を述べている。

一方、中学校学習指導要領解説技術・家庭編に記載されている実践的・体験的な学習活動のとらえを【表3】に示す。

【表3】実践的・体験的な学習活動に関する記載

技 術 ・ 家 庭 科	製作、整備、操作、調理などの実習や、観察・実験、見学、調査・研究など
家 庭 分 野 住 生 活	調査や観察・実験・住生活を豊かにするための小物製作など

家庭分野では、実際の生活を営む上で必要な4つの学習内容について、理論や考え方のみの学習に終わることなく、衣食住などに関する実習や調査などの実践的・体験的な学習活動を通して具体的に学習することにより、学習した知識と技術が生徒自らの生活に生かされることを重視している。

以上、新学習指導要領の改訂のねらい、家庭科教育などの文献調査から、家庭分野における実践的・体験的な学習活動を次のようにとらえる。「体験的に学ぶ」とは、頭で考えて分かるだけでなく、手先などの体の部位や五感を使って生活に必要な知識と技術を経験させ、実感を伴わせる状態であり、「実践的に学ぶ」とは、体験的な学習活動によって身に付けた知識と技術を、実際の生活において活用しようとする状態とする。

(3) 家庭分野住生活における指導の実態

家庭分野住生活における指導の実態を把握するために、中学校家庭科教員を対象に、配当時間、実践的・体験的な学習活動に当てる実習費や教材・教具の整備状況について調査を行った。調査は、家庭分野家庭コースの要請研修に参加した教員9校9名を対象とした。

ア 調査対象

花巻市教育研究所中学校家庭科部会（4名）

和賀地区教育研究会技術・家庭科部会家庭班（5名）

イ 結果とその分析と考察

住生活の内容（布を用いた物の製作、生活を豊かにする工夫の指導を含める）の配当時間は、7～10時間を検討している教員が多かった。衣生活・住生活の内容における実践的・体験的な学習活動に充てる一人当たりの実習費は、800円から2,800円と各校に差がみられた。このことは、教師が指導する生徒の実態に応じて題材や教材を構成することができ、教師の裁量に任されていることによるものと考えられる。

住生活の学習活動を充実させるための教具の現状を【表4】に示す。5,000円以下で整備可能な温湿度計の現有校は半数を占めているが、カタログ価格で1～6万円程度になる気体検知管、高齢者疑似体験セットの現有が極めて少ない。また、デジタル動画操作で住居の機能などが確認できるコンピュータソフト、騒音を計測する実験を可能とする騒音計の整備は、高額な予算を要することから現有校はない。しかしながら予算があれば整備したい教具として、高齢者疑似体験セット、コンピュータソフト、デジタル騒音計などをあげる教員が多かった。

【表4】住生活学習教具の現状（9校中）

機 器 名 等	現有校
温湿度計	4校
住宅用温度計3点セット	1校
デジタル照度計	2校
気体検知管	1校
高齢者疑似体験セット	1校
騒音計	0校
住居の機能確認PCソフト	0校

一方で、新学習指導要領に基づく学習活動を充実させるために、各校で今年度から次年度にかけて優先して整備したい教具は、電動ミシンが5校と最も多く、次いで包丁及び殺菌収

納庫，ガスコンロ，アイロン，住生活学習教具であった。食生活や衣生活の実践的・体験的な学習活動を充実させるための教具が従前から不足していること、「布を用いた物の製作，生活を豊かにする工夫」が必修となったことなどから製作実習の時間的効率を上げるために電動ミシンの充足を最優先させたい状況がうかがえる。

以上のことから，家庭分野の学習指導では配当時間，実習費，教具の現有のいずれにおいても，食生活・衣生活に重点が置かれがちで，住生活の内容における実践的・体験的な学習活動を十分に行うことができない状況が明らかになった。これは，大学で住居学を専門とした教員が少なく，食品・栄養学や被服学を専門とする教員の割合が多いことや，食生活は食材，衣生活は布や衣服など容易に入手できる材料で教材・教具が準備できるのに対し，住生活は実際の生活が持ち家から共同生活施設と生徒の住居・住環境が多様化しており，実生活に介入した学習課題の設定が難しいことなどが要因として考えられる。住生活の学習指導が理論や考え方のみの学習に終わることなく，実践的・体験的な学習活動を通じた具体的な学習に展開するためには，教師や生徒が入手容易な教材・教具を用いて，生徒の実際の住居・住環境に介入せずに日常生活を想定できる場面設定や簡易実験などを盛り込んだ題材などを開発し，指導を支援することが必要である。

2 実践的・体験的な学習活動を中心とした題材開発と指導資料

(1) 題材開発の視点

住生活の内容における実践的・体験的な学習を中心とした題材を開発した。題材を開発する視点として，住生活の内容と具体的な指導事項を踏まえ，指導のねらいに即した実践的・体験的な学習活動が展開できることを重視した。題材に重視する視点は，日常生活を想定できる場面設定から課題解決的な学習が展開できること，身近な材料で簡易な観察・実験が展開できること，住生活を豊かにするための布を用いた小物製作が展開できることの三つである。これら三つの視点から開発した題材と実践的・体験的な学習活動との関連を【表5】に示す。

【表5】開発題材の視点と実践的・体験的な学習活動との関連

題材の視点【指導項目】	開発題材	実践的・体験的な学習活動
日常生活を想定できる場面設定から課題解決的な学習が展開できること 【C(2)ア・イ，C(3)イ】	家族が安全・安心な室内環境を考えよう	課題解決的な学習 ・ コラージュ作成 ・ 作品発表と相互評価 ・ セブクロス法ワークショップ ・ 住まいの安全対策発表会
身近な材料で簡易な観察・実験が展開できること 【C(2)イ】	換気・除湿の状態を確認しよう	簡易模型による換気・除湿の観察
	洗剤のいらない汚れ落とし剤を作って，使おう	油・ほこりの混合汚れの分解観察
住生活を豊かにするための布を用いた小物製作が展開できること 【C(3)ア】	住まいの安全・安心対策や節電に役立つ小物を工夫しよう	布を用いた物の製作実習 ・ 非常持出袋の工夫と製作 ・ 玄関収納ポケットの工夫と製作 ・ 落ちないクールネックタイ

家庭分野の学習指導を計画する際，これまで指導してきた題材にとらわれずに，改訂された学習指導要領の学習内容ごとのねらいをしっかりととらえ，このことを題材や学習活動を工夫する際の視点とすることが重要である。今回は教師や生徒が入手容易な教材・教具を用いた住生活の題材を開発したが，より実践的・体験的な学習活動を充実させるためにも，教材・教具については，食生活や衣生活の領域に偏ることなく，AからDの4つの学習内容ごとに充実させるよう，整備していくことも重要である。

(2) 指導資料

ア 指導資料作成のねらい

家庭分野における実践的・体験的な学習活動を充実させる住生活の内容の題材開発を中心に研究を進めてきたが、指導の実態調査から明らかになった住生活の内容における実践的・体験的な学習活動を十分に行うことができない現状に加え、県内の家庭科教員の配置は免許外教員の割合が多い現状も指導上の課題である。そのため、指導を充実させるには、開発した題材の活用方法を具体的に示す指導資料を作成し、実践的・体験的な学習活動の指導を支援する必要がある。

イ 指導資料の構成

指導資料の構成は、題材ごとの指導資料とその指導に活用できる生徒用学習シートとする。教材の事前準備から、学習指導、評価までの一連の流れを具体的に示すために、項目を工夫した。題材毎の指導資料の項目を【表6】に示す。

ウ 指導資料の内容

題材ごとの指導資料から重要な点を抜粋した指導資料の内容を【資料1】に示す。

【表6】指導資料の項目

題 材	○題材の視点 ○題材名 ○指導項目（関連） ○題材の目標 ○題材の指導計画 ○題材の評価規準
教師の事前準備	○教材・教具 ○学習活動・地域資源活用
指導展開例	○学習活動・学習内容 ○学習課題 ○板書例 ○指導上の留意点 ○教材・教具活用場面 ○評価場面・評価方法

【資料1】指導資料の内容

<p>< 題 材 の 視 点 > 日常生活を想定できる場面設定から課題解決的な学習が展開できる</p>				
題 材 名			項 目	
題材の目標				
題材の指導計画	①		時間	
	②		時間	
題材の評価規準	生活や技術への関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての知識・理解
	～しようとしている	～考え、工夫している	～できる	～についての知識を身に付けている
教師の事前準備	教材・教具	<input type="checkbox"/>		
	学習活動・地域資源活用	<input type="checkbox"/>		
指導展開例	学習活動	板書例	指導上の留意点, 教材・教具活用場面, 評価場面・評価方法	
	学習内容			
導入	・本時の学習課題を確認する		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>【生活や技術についての知識・理解】</p> <p>～についての知識を身に付けている</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【日常生活を想定できる場面設定】</p> <p>モデル家族 70歳代祖父母, 40歳代父母 子ども 中学生1人・小学生1人・幼児1人 など</p> </div>	
展開	学習課題:			
まとめ	板書例			

3 開発した題材を活用した授業実践の分析と考察

開発した題材の有用性を考察するため、「安全・安心な室内環境を考えさせる題材」を活用した指導計画を立てた。授業実践は、花巻市立矢沢中学校2年B組28名を対象に行った。実施日と学習指導計画を【表7】に示し、次に、授業実践の概要と実践結果の分析と考察を述べる。

【表7】授業実践の実施日と学習指導計画

実施日	時	学習内容・学習課題	実践的・体験的な学習活動
11月16日	1	家族と共に住もう（住まいへの願い）	・コラージュ作成 ・作品発表と相互評価
11月18日	2	家族が「ホッとできる」室内環境を考えよう	
11月30日	3・4	住まいの安全対策 ホッとできる（安心な）室内環境は、快適で安全な住まい方につながるか考えよう 家族の「安全」を確保した「安心」できる快適な住まい方の工夫について自分の考えをまとめよう	・セブクロス法ワークショップ ・発表と学習のまとめ ・「快適に住もう」学習状況記録シートへの記述

(1) 授業実践の概要

【資料2】に、題材「安全・安心な室内環境を考えよう」を活用した授業実践の概要を示す。授業の様子は、次頁図1～6によって示す。

【資料2】授業実践の概要

時	学習内容・学習活動	指導上の留意点	教材・教具
1 / 4	家族と共に住もう（住まいへの願い） 学習課題：家族が「ホッとできる」室内環境を考えよう ・モデル家族が安心で楽しく住もう室内環境を考える ・家族が集まったり、共用したりする住空間について、家具の配置や団らんの場をコラージュに表現する	少子高齢社会におけるモデル家族が安心して生活できる室内環境をコラージュで表現させる モデル家族（7人家族） ・70歳代祖父母 ・40歳代父母 ・子ども3人 （中学生・小学生・幼児各1人）	・ブラックボード（画用紙黒） ・住まいに関する雑誌・家具カタログ ・水のり ・紙用はさみ ・自己評価カード
2 / 4	・完成したコラージュについて、工夫した点を発表する ・発表後、他の班のコラージュを見て回り、付せん紙のピンク色に良く工夫している点、水色に危険と思われる点を記入し、貼付していく	・要点よくコラージュ作成で工夫した点を発表できるように、発表原稿作成シートを用いて、発表の準備をさせる ・付せん紙に誹謗中傷を書かないように注意する	・コラージュ完成品 ・発表原稿作成シート ・付せん紙（ピンク色・水色）
3・4 / 4	住まいの安全対策 学習課題：ホッとできる（安心な）室内環境は、快適で安全な住まい方につながるか考えよう 学習のまとめ 家族の「安全」を確保した「安心」できる快適な住まい方の工夫について自分の考えをまとめよう	・安心と安全の相違点や、住まいの安全を脅かしている現象、高齢者と幼児の身体的変化や動きの特徴について確認させる ・コラージュに貼付された水色の付せん紙を課題として、重要度の大小について考えさせる ・課題への安全対策を考え、ピンクの付せん紙に記述させ、取り組みやすさの順を考え、発表させる。 ・日常生活への実践意欲、工夫点をまとめさせる	・教科書 ・住まいの安全・安心学習シート ・コラージュ完成品 ・セブクロス法ワークショップシート ・学習状況記録シート

 <p>【図1】家族が「ホッとできる」住まいのコラージュ作成の様子</p>	 <p>【図2】家族が「ホッとできる」住まいのコラージュ作成の様子</p>	 <p>【図3】住まいのコラージュ発表原稿を記述している様子</p>
 <p>【図4】家族が「ホッとできる」住まいのコラージュ発表の様子</p>	 <p>【図5】水色の付せん紙に危険な点を記述・貼付している様子</p>	 <p>【図6】セブクロス法ワークショップによる安全対策発表会</p>

(2) 実践結果の分析と考察

まとめの授業の最後に、「快適に住まう」学習状況記録シートへの記述による学習状況の調査を行った。家族の「安全」を確保した「安心」できる快適な住まい方についての生徒の記述を【表8】に示す。生徒の記述から、家族の一員であることを自覚し、幼児や高齢者との安全・安心な住まい方の工夫を実践しようとする意欲がみられた。

【表8】学習のまとめの生徒記述

<p>日常生活で気をつけていきたいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・妹を危険な目にあわせないようにする（妹を危険から守る） ・家で祖父母に危険な場所などがないか、気をつけていきたい ・私は祖父母が両方とも居る家族なので、小さな段差や階段は確かに危険だと思った。いつでも自分で見て、危険だと判断したら、すぐ行動できるようにしたい。また、家電や物の置き方を考えたい（高い所には、できるだけ物を置かない） ・自分だけでなく周りに気を配ることで、危険な所などが見付かってくると思うので、まず、自分が気をつけていきたい ・物を散らかさない。危ない物は安全な所にしまう ・常にみんなで生活する場をきれいにし、事故のないように生活する ・段差に気をつけていきたい ・コード（コンセント）でつまづかないように、コードを短くする。（完全に抜いておく） ・物をいろいろ置いていて、落ちそうな所があるので、こまめに片付けをする
<p>日常生活で工夫したいこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家具の置く位置や、どうすれば安心・安全な室内空間になるかを考えて整理すること（整理しやすいように収納を充実させる） ・「角」は削ったり、布やゴムを付けたたりして、頭をぶつけても大丈夫なようにしたい。また「滑りやすい所」は、ゴムシートのようなものを置き、住みやすい家にしていきたい ・家電を低い位置に置き、戸棚を固定して物が落ちないようにしたい。また、コードは引っかかったらすぐ外れるものにしたい ・倒れやすいものや割れやすいものを、しっかり固定して、割れやすいものの近くに置かないようにしたい ・いらぬ物は、なるべく減らすようにする ・家の風呂は滑りやすいので滑り止めマットなどを使いたい ・階段に手すりをつけたい ・段差があるので、台をつけて登りやすくする

「安全・安心な室内環境を考えさせる題材」を活用した学習のねらいは、住まいの安全の視点から、家族が安心して住もうための室内環境の整え方を知り、住まいの在り方に関心を持って、快適な住まい方の工夫ができるようにすることである。室内環境の整え方や快適な住まい方を体験させる学習活動の一つとして住宅展示場の見学が考えられるが、最新の建築技術や設備などを盛り込んだモデルハウスに生活課題の見いだしは期待できない。また、家具や家電製品の配置など室内環境の整え方を模擬的に体験させることも難しい。一方で、生徒一人ひとりが住もう実際の室内空間と家族構成を学習課題にしようとする、多様な住居・住環境状況が学習意欲を消極的な方向へと導きかねない。この題材を活用した学習は、モデル家族を設定した住まいのカラージュ作成から、幼児や高齢者との安全・安心な室内環境を考えさせることができ、実践的・体験的な学習活動を充実させる題材として有用であり、実生活への実践意欲の向上につながる事が明らかとなった。

IV 研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

本研究は、中学校技術・家庭科家庭分野住生活の内容における題材開発と指導資料を作成することによって、実践的・体験的な学習活動の充実に役立てようとするものである。

そのために、新学習指導要領の改訂のねらい、家庭科教育などの先行研究に基づき、家庭分野における実践的・体験的な学習活動のとらえを明らかにし、それらを充実させる題材開発の視点として、次の三つを示した。

- ・日常生活を想定できる場面設定から課題解決的な学習が展開できること
- ・身近な材料で簡易な観察・実験が展開できること
- ・住生活を豊かにするための布を用いた小物製作が展開できること

これらの視点に基づき教師や生徒が容易に入手できる教材・教具を用いて題材を開発した。

さらに、「安全・安心な室内環境を考えさせよう」の題材においては、授業実践を通じた指導資料を作成した。

2 今後の課題

家庭分野の住生活における実践的・体験的な学習活動を充実させるために開発した題材は、非常時の生活課題について学習を展開させる視点も含んでおり、開発した題材が活用できるよう指導資料を充実させていく必要がある。

家庭科は実際の家庭や社会の課題を学習課題とする教科であり、東日本大震災などの経験から、他の領域も盛り込んだ非常時の生活課題を学習課題とする防災に関連付けた家庭科の学習指導の充実が求められている。

<おわりに>

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました先生方、生徒の皆さんに心からお礼を申し上げます。また、研究協力員としてご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

【引用文献】

- 中間美砂子編（2004），『家庭科教育法—中・高等学校の授業づくり—』，p.69
鶴田敦子・伊藤葉子編（2008），『授業力UP家庭科の授業』，p.18

【参考文献】

- エリザベス・j・ヒッチ／ジューン・ピアス・ユアット編（2005），『現代家庭科教育法個人・家族・地域社会のウェルビーイングの向上をめざして』，大修館書店
- 大島愛子・金子幸子・新副祐子・浅見雅子（1996），『住居領域の実験・実習』，家政教育社
- 河野公子編（1996），『新しい指導法・題材で授業を改革する2 中学校技術・家庭科「食物・住居」』，明治図書
- 鳥井葉子・馬場亜沙美・中林啓・茨木宏美・石井淳子・木下みゆき・石田絃子（2009），『新学習指導要領実施に向けた家庭科の教育実践上の課題』，鳴門教育大学研究紀要
- 日本家庭科教育学会編（1998），『小・中・高等学校家庭科教育の新構想研究家庭科の21世紀プラン』，家政教育社
- 福田公子・山下智恵子・林未和子編著（2004），『生活実践と結ぶ家庭科教育の発展』，大学教育出版
- 武藤八重子（2004），『中学校家庭科教育へ向けて授業を拓く』，教育図書
- 村川雅弘編（2005），『授業にいかす教師がいきるワークショップ型研修のすすめ』，ぎょうせい
- 山崎古都子（1990），『住教育研究の現在の到達点』，滋賀大学教育学部紀要